

かくあれかし

江木美智子

日々口にしてきた和食は古来から女性の手で受け継がれ、子から孫へと継承され、世界遺産にも和食が登録されたことは日本人として誇らしく思います。しかしです、生活の多様化で、今は女性の社会進出もあり、お袋の味は本当

と何もしくなくとも良い。こんな社会、変だと思いませんか？ 弥生会の皆さんに当たり散らすのではありません。お若い方に言いたいことは、ぜひ肉ジャガ以外の得意料理を一品でも多く作れる人になってください、ということ。今なら栗を使った渋皮煮から、栗入り大平、秋はシンの実の保存食もお勧めです。家族の胃袋を満たすことのできる女性こそが弥生会会員だと思いませんか。お客をも

てなすにも、岩国特産レンコンを使う物はいろいろあります。サラダ、なま酢、きんぴら、いやいやまず岩国寿司ですね。お母さんはあんなこと、こんなこともしてくる、と子どもに覚えてもらえるよう、ちょっと時間のやりくりをしようではありませんか。来春は選挙もありますね。皆さんと一緒に祝いの岩国寿司を食べられるようがんばりたいと思っております。

たり、職の製作 各種イベントでの積極的な参加など皆さんの活動に心から感謝しています。昨年の要望の中に市の組織体制づくりがありました。今年四月から錦帯橋の推進班と架け替え班を合わせた錦帯橋課を設置しました。架け替え技術の伝承は大きな課題ですが、今年十一月から若手を中心に定期的に技術の研修の場を設けま

す。次期架け替えを含め、担う人材育成を図って参ります」と対策を説明されました。

その上で「資料館設置や県との連携、推進体制などいくつか要望をいただいた。いずれも重要であり、できることはしっかり行いたいと考えます。錦帯橋は郷土の誇る木造橋です。世界文化遺産に押し上げるには行政だけでなく、市民の方々の後押しが必要です。推す会の皆さんはその架け橋として尽力いただいております。これからもしっかり連携しながら頑張りたいと頼もしくおっしゃいました。期待いたしますよう。

福田市長と共に推進

錦帯橋を世界文化遺産に推す会

錦帯橋の世界文化遺産登録を目指す運動に取り組んでいる「錦帯橋を世界文化遺産に推す会」(川畑道子会長)は十月九日、岩国市を訪れ、登録の前提となる国の暫

定リスト入りを果たすため、国から与えられた課題の早期解決、運動をさらに強力にすることを求め、市と県による推進協議会の設置など四項目の要望書を福田良彦市長に提出しました。

川畑会長は、「秋市の松下村塾など五件を含む、明治日本の産業革命遺産が世界文化遺産に登録され、県内に初の世界文化遺産が誕生しました。平成二十八年度の世界文化遺産の登録候補として長崎の教会群とキリスト関連遺産に続き、二十九年度年度は、神宿る鳥宗像・沖ノ島と関連遺産群が決まっています。このような中、改めて足下を見つめ直し、錦帯橋の世界文化遺産登録の早期実現を期して要望いたします」と述べて、登録の暫定一覧表掲載に向けた課題の早期解決、県と市が連携する登録推進協議会の設置、現行の登録申請名「錦帯橋と岩国の町割り」の変更、錦帯橋を持続的に保全して文化遺産として守るための政策



と環境の整備の四項目の実現をお願いしました。

県との推進協議会設置はユネスコ世界遺産委や国際記念物遺跡会議の調査・審査に対応するための

福田市長に要望書を手渡す川畑会長(右)

体制強化につながるものです。

福田市長は、「講演会を企画され

バザーへの協力に感謝

「弥生会」

十月十八日(日)、恒例となりました、「いわくに祭り」のバザーに今年も参加いたしました。皆さまには多くの遊休品並びに手作りの作品を提供いただき、本当にありがとうございました。

お陰様で大盛況のうちに完売することができました。

近く、売り上げ十一万六千七百のうち、五万円を福田岩国市長へお届けし、日本赤十字を通じて豪雨被害に遭われた地域への義援金とさせていただきます。

残りには会の活動資金として大切に使用させていただきます。誠にありがとうございました。御礼を申し上げます。

